

# 令和 8 年度 月寒中学校 「学ぶ力」 育成プログラム

## 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：35002

| 「学ぶ力」   |   |
|---|---|
| これまでの成果   | 課題  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>◇対話的な学びを実現するための授業改善を進めた。</li> <li>◇TT、少人数指導の充実を図り、生徒の学校評価アンケートにおいて、「授業に興味・関心をもって取り組んでいる」に対する評価は*3.2 (R6 も 3.2) であった。</li> <li>◇授業時数の確保に努め、テスト計画表の積極的な活用を学活などで行った。</li> <li>◇各教科での小テストや単元テストの実施回数を増やし、生徒の知識・技能の定着度の把握に努めた。<br/>(*そう思う…4、ややそう思う…3、あまりそう思わない…2、そう思わない…1で計算した平均値)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>◇単元の学習内容や学習課題によっては、生徒の知識の定着度の差が要因で対話的な学びが深まらない場面がある。</li> <li>◇「わかりやすい授業に努め理解度に気を配っている」の教職員評価*3.6 に対し、「授業内容の理解度」への評価が、生徒 3.1 保護者 2.8 である(生徒は R6 から 0.1 の下降、保護者は変化なし)で</li> <li>◇さらに「家庭学習や課題に見通しをもった取組」が他より低い傾向がある(生徒 2.7 保護者 2.5) (R6 より両者とも 0.1 下降)。計画性のある学習の重要性を伝えるとともに、その実践を推進していくことが課題と考える。</li> </ul> |
| <p>「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く相互承認の感度〉の現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇札幌市全体の共通指標アンケートにおいて、「人のよいところを見付けようとしている」に対して肯定的な回答をした生徒が 92.0%と高い結果になった。</li> <li>◇「自分にはよいところがある」に対して肯定的な回答をした生徒が 86.0%、特に、「自分が必要とされていると感じる」に対しては 75.3%と他の指標と比べてやや低い結果となっている。</li> </ul>   |   |

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

### ゴールへの見通しをもって、主体的に学習や課題に取り組む力

|    | AAR サイクルの視点で捉え直した<br>課題探究的な学習の推進   | さっぽろっ子宣言「プラスのまほう」に基づく<br>自治的な活動の充実  |
|----|--|---|
| 取組 | <ul style="list-style-type: none"> <li>◇子どもが課題を自分ごととして捉え、学習の見通しをもてる振り返りや、学習計画の方法を研究する。</li> <li>◇計画を立てて、経験し、それを振り返ることを繰り返し、<u>学習者が自ら理解を深めるような学び</u> (自己学習調整のサイクル) を推進する。</li> <li>◇教師が、子どもの学びをどう捉えるか、自ら学ぶ力を育成する学習活動、授業のあり方をどう改善すべきかをまず認識する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>◇自分たちの意思を実現できる生徒会活動を推進する。</li> <li>◇自分たちの問題を自分ごととして捉え、自分たちで解決する場面を設定する。</li> <li>◇道徳教育の推進に努め、自分たちの行動に責任をもつことなど、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。</li> <li>◇一人一人が「自分のよさ」や「自分が必要とされていること」に気付くことを通して、「自分が大切にされている」と実感できる学校、集団づくりを進める。</li> </ul> |

#### 〈本プログラムの実行に向けて〉

##### 新年度

◇学習における基礎・基本を身に付けるための学習環境・習慣づくりの推進とセルフチェックを積極的に活用した授業改善。

##### 〔一人一人の教職員〕

◇昨年度の学校評価などの結果を基に、基礎・基本の定着や見通しをもった学習に向けての具体的な取組の手立てを考える。

##### 〔学校全体〕

◇小中一貫した教育の取組をパートナー校と協力して進め、一貫性・連続性のある学習指導を進める。

##### 次年度へ

◇校内研修会などを通して、自己学習調整についての研修を深め、学校評価で結果の検証を継続する。